

令和元年度 事業報告書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

一般財団法人 草間彌生記念芸術財団

東京都新宿区弁天町 109

I. 事業報告

○事業の主旨

草間彌生美術館は前衛芸術家・草間彌生が設立し運営している。草間作品および関係資料の展示を通じて草間芸術の普及振興を図り、芸術全般の発展に寄与することを目的とし諸事業を展開している。

今年度もその理念に基づき、収蔵作品（収蔵予定作品を含む）を年2回の展覧会にて紹介し、講演会や子ども向けワークショップなどの催事を実施した。加えて初の試みである特別展を3月から開催し、1960年代ヨーロッパで活動する作家たちと草間との交流に見る同時代の作家達との類似点と共に、草間の独自性を改めて示した。

草間が作品を通じて繰り返し訴えてきた、世界平和と人間愛というメッセージを広く世界へ伝え、多くの方々に現代美術に慣れ親しんでいただく美術館を目指している。

○施設の概要

平成29年10月に開館した当館は、地上5階（展示ギャラリー、ブラウジングスペース、ショップ）、地下2階（収蔵庫）。延床面積727㎡で、階段またはエレベーターで1階から順番に上の階へあがり展示ギャラリースペースへ進み、下りはすべてエレベーターを使用としている。

美術館から徒歩1分の至近距離に事務局を設け、美術館とは密接な連携がとれる環境となっている。

1. 常設企画展

今年度は2回の常設企画展、3月から初の特別展を企画・実施、開館日数174日、来館者67,404名（うち有料来館者65,334名）という予定であったが、2月ごろから世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症の深刻な影響により、特別展は、開館はしたが開館5日目から臨時休館をせざるを得ない状況が年度末まで続き、ギャラリートーク、講演会などの特に人が集まるイベントも中止となった。10月には台風の影響により1日臨時休館となったことから今年度の開館日数は161日、来館者数は61,884名、1日平均384名という結果になった。

美術館開館日は木・金・土・日曜および国民の祝日で、入場は1日6回転（1回70名）、開館時間は11時から17時半までとしている。

美術館敷地内に入場待機列をつくるスペースなどの余剰が少ないため、混雑緩和と近隣地域への配慮から事前予約制をとり、チケットは美術館の公式ウェブサイトのみで販売という独自の方法は徐々に認知されてきた。1日420名の収容規模で運営して

おり、開館からこれまでのチケットはほぼ完売という状況で、海外からの来館者も増え続け5割を超え、安定した運営を行うことができている。

展覧会は、当館学芸課が企画し、作品選定、運搬、会場構成、展示、作品リスト・図録の作成などすべてを執り行った。出品作品は絵画、ドローイング、立体作品、体験型インスタレーション、映像、資料など多岐に渡り紹介し、鑑賞を楽しみながら制作の背景や美術史上の意義の理解ができるような展示を心掛けた。海外からの来館者にも理解しやすいようバイリンガル表記の作品リスト、図録とし、ウェブサイトもバイリンガル対応としている。外部業者へ委託し、館内監視、来館者の受付対応、チケット販売などを行い、美術館の鑑賞環境の向上に協力を得た。

教育普及活動事業としては、展覧会会期中に講演会を各1回開催しており、第4・5回展については美術館から徒歩3分の至近距離にある区立漱石山房記念館講座室を会場に、外部から識者をゲストに招き約40～50名の参加を得て実施した。

特別展についてはドイツから展覧会のテーマともなっている「ゼロ・ファウンデーション」のマネージング・ディレクターを招聘し当館館長、企画担当者との対話を予定し時期の調整を試みたが、新型コロナウイルス感染症拡大により結局中止せざるを得ないこととなった。

また当館スタッフによるギャラリートークは月2回・週末に展示フロアにて開催し作品の見方のヒントや、時代背景がわかる資料について触れるなど展覧会をわかりやすく、楽しんでもらえる話題を提供した。

展覧会ごとに図録を制作・美術館のショップで販売している。発行は一般財団法人草間彌生記念芸術財団で日英バイリンガル・A4変型ハードカバーの体裁。

○第4回展覧会企画

「幾兆億年の果てより今日もまた夜は訪れてくるのだー永遠の無限」概要

タイトル 「幾兆億年の果てより今日もまた夜は訪れてくるのだー永遠の無限」

会 期 2019年4月4日（木）～8月31日（土）

プレスプレビュー 2019年4月3日（水）14：00～17：00

開催日数 93日間

入場時間 ①11：00～12：30

②12：00～13：30

③13：00～14：30

④14：00～15：30

⑤15:00～16:30

⑥16:00～17:30

11:00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日からチケットは美術館ウェブサイトのみに販売

事前予約・定員 70 名・入替制、当日券はなし。

観覧料 一般 1,000 円 小中学生 600 円
※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 36,062 名

1 日平均 約 388 名

図録 A4 変型 51 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 30 点

企画趣旨 1959年に発表した、始まりも終わりもなく、ただ網目が反復する絵画シリーズ「無限の網」は、抽象表現主義が隆盛するニューヨーク・アート界でその独自性が高く評価され、草間は前衛芸術家としてのキャリアを彼の地で華々しくスタートした。「無限の網」シリーズの初期作品および当時の制作の様子がわかる写真・資料と最新の絵画シリーズ「わが永遠の魂」を中心に展覧。無限の反復により、時空を超越し永遠に生きる創作を試みる作家の多様な創作の軌跡を紹介した。

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1日平均(名)
4	18日	6,981	約388
5	20	7,723	386
6	18	6,902	383
7	17	6,575	387
8	20	7,881	394
計	93日	36,062名	約388名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	無題（無限の網断簡）	草間彌生	1960	油彩・キャンバス	36 x 995 cm	
2	Untitled	草間彌生	c.1960	油彩・キャンバス	102 x 142.2 cm	個人蔵

3	No. N2	草間彌生	1961	油彩・キャンバス	125 x 178 cm	個人蔵
4	Infinity Nets (1)	草間彌生	1958	油彩・キャンバス	125.3 x 91 cm	
5	Infinity Nets (2)	草間彌生	1958	油彩・キャンバス	125.2 x 91 cm	
6	No.10. F.B	草間彌生	1959	インク、パステル・紙	60 x 70.8 cm	個人蔵
7	No.11. A.	草間彌生	1959	水彩、インク・紙	58.8 x 69.7 cm	
8	宇宙へ行った感動の瞬間	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
9	人間の一生	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
10	永遠に尽きる事の無い宇宙への限りもない美しさ	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
11	銀色の宇宙	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
12	青春を迎えた女たちの園	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
13	私の命の消滅	草間彌生	2011	アクリル・キャンバス	130.3 x 162 cm	
14	深夜の語らいは夢で一杯	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	162 x 162 cm	
15	心が傷んだときの自画像	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	162 x 162 cm	
16	地球に愛がやってきた 宇宙物語をたずさえて	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	130.3 x 162 cm	
17	幾兆億年の果てより 今日夜はまた訪れてくるのだ	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
18	無限の空間への憧れ	草間彌生	2018	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
19	人間の一生	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	162 x 162 cm	
20	屋下がりの自画像は心がふるえるほど幸福	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	130.3 x 162 cm	

21	命の消滅	草間彌生	2011	アクリル・キャンバス	162 x 162 cm	
22	求道の輝く星は宇宙 のかなた、求めれば 求めるほど光り輝く のだった	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	130.3 x 162 cm	
23	戦争をやめよう	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
24	人生は虹の心	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
25	平和よ来たれ 宇宙 の果てまでも	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
26	宇宙の花園	草間彌生	2012	アクリル・キャンバス	162 x 130.3 cm	
27	太平洋	草間彌生	2011	アクリル・キャンバス	162 x 130.3 cm	
28	永遠への希望	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
29	天国への梯子	草間彌生	2019	ミクストメディア	303 x ø150 cm	
30	PUMPKIN	草間彌生	2015	ウレタン塗装・ステン レススチール	173.7 x ø182.2 cm	

○関連企画 対談イベント

美術史家・美術評論家である林氏と館長との対談形式で、作家が活動していた1960年代のニューヨークのアートシーンと作家の制作の実際について紹介した。

講演名：「ニューヨーク^{スクール}派 と草間彌生」

日時：7月28日（日）15：00～16：30

出演者：林道郎（上智大学 国際教養学部国際教養学科 教授）

建畠哲（当館館長）

参加者数：36名

場所：新宿区立漱石山房記念館 講座室



ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークは月 2 回のペースで実施し、各フロアに展示された作品に関する背景や特性を話し、スタッフの鑑賞の視点を伝えることで各来場者の鑑賞活動を促した。

担当：学芸員・スタッフ

日時：各回 14：15～、計 10 回開催（以下参照）

場所：草間彌生美術館 2・3F 展示室

実施日	参加人数（名）
4 月 6 日（土）	52
27 日（土）	54
5 月 4 日（土）	53
18 日（土）	51
6 月 1 日（土）	54
15 日（土）	38
7 月 13 日（土）	43
27 日（土）	30
8 月 10 日（土）	62
24 日（土）	61
計 10 日	498 名



展覧会図録制作

発行：2019 年 4 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・48P・日英バイリンガル

価格：2,000 円 ※消費税値上げにつき 2019 年 10 月より 2,200 円に改定



○第 5 回展覧会企画

「集合の魂たち」概要

タイトル 「集合の魂たち」

会 期 2019 年 10 月 10 日（木）～2020 年 1 月 31 日（日）

プレスプレビュー 2019 年 10 月 9 日（水）14:30~16:30

開催日数 64 日間（10 月 12 日は開館予定だったが台風のため臨時休館）

入場時間 ①11：00～12：30

②12：00～13：30

③13：00～14：30

④14：00～15：30

⑤15：00～16：30

⑥16：00～17：30

11：00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日からチケットは美術館ウェブサイトのみに販売

事前予約・定員 70 名・入替制

観覧料 一般 1,000 円 小中学生 600 円

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 24,622 名

1 日平均 約 379 名

図録 A4 変型 48 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 33 点

企画趣旨

1961 年に始まる、同一物を反復する「集積」「集合」と題したシリーズは、ステッカーなど日用品のコラージュによる平面作品に始まり、ほどなく、布に綿を詰めた柔らかい突起物を家具などに無数に貼り付けたソフト・スカルプチュアのシリーズへと展開、以降草間は現在に至るまで多様な「集積」作品を制作している。90 年代後半から積極的に展示している巨大化したソフト・スカルプチュアであり水玉の集積であるバルーンのインスタレーション《水玉強迫》や、最新作「わが永遠の魂」における「集積」のバリエーションの現在形を展覧。

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1 日平均（名）
10	14 日	5,215	約 348
11	19	7,417	390
12	16	6,257	391
1	15	5,733	382
計	64 日	24,622 名	379 名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	水玉強迫	草間彌生	1999	ミクストメディア	サイズ可変	

2	エアメール・ステッカー	草間彌生	1962/1992	コラージュ、エアメールステッカー・キャンバス	181 x 171.4 cm	
3	空間の集積 (No. 62. CO.)	草間彌生	1968	コラージュ、ステッカー、キャンバス	154.9 x 172.1 cm	個人蔵
4	無題 (ボウル)	草間彌生	1968	ボウル、詰め物入り縫製布、塗料	6.5 x 27 cm	
5	無題 (フライ返し)	草間彌生	1968	フライ返し、詰め物入り縫製布、塗料	4.5 x 8 x 36.5 cm	
6	無題 (椅子)	草間彌生	1963	椅子、詰め物入り縫製布、塗料	93 x 81 x 92 cm	
7	無題 (トレイ)	草間彌生	1968	トレイ、詰め物入り縫製布、塗料	5 x 46 x 36 cm	
8	無題 (靴)	草間彌生	1968	靴、詰め物入り縫製布、塗料	27 x 8 x 21.5 cm	
9	無題 (バニティケース)	草間彌生	1968	バニティケース、詰め物入り縫製布、塗料	20.5 x 30 x 20.5 cm	
10	無題 (靴)	草間彌生	1968	靴、詰め物入り縫製布、塗料	17 x 9 x 23 cm	
11	無題 (靴)	草間彌生	1968	靴、詰め物入り縫製布、塗料	23 x 9.3 x 27 cm	
12	文字の集積	草間彌生	1961	コラージュ、水彩・紙	62.8 x 73.3 cm	個人蔵
13	無題	草間彌生	c.1962-63	コラージュ、おもちゃの紙幣・紙	60.5 x 63.5 cm	
14	愛はきらびやかなのに、世界は戦争ばかりしている	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
15	自殺未遂の日	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
16	今日も同じく地球はかくのごとくまわる	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
17	集合の魂たち	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
18	悲しみの日々	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
19	砂漠の果て	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	
20	永遠に生きてい	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 x 194 cm	

	きたい					
21	いまわしい戦争 のあとでは幸福 で心が一杯にな るばかり	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
22	私たちのパーテ ィ	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
23	少女たちの夢	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
24	落魄の墳墓、そ して私の心の貧 しさだけが全身 を支配している のだ	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
25	落涙の居城に すみて	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
26	月の夜の河	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
27	人生の祭典	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
28	静かな朝のめざ め	草間彌生	2010	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
29	陽光の中で世界 に平和を望む	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
30	よろこびの季節 がやってきた	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	96 x 110 x 47cm	
31	蕾は開く	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	150 x 60 x 65cm	
32	天国への梯子	草間彌生	2019	ミクストメディア	303 x ø150 cm	
33	PUMPKIN	草間彌生	2015	ウレタン塗装・ ステンレススチール	173.7 x ø182.2 cm	

○関連企画

講演会

講師として斎藤環氏を招き、精神科医の観点から、こどもの頃から強迫観念にと
らわれながら生まれた草間作品の特徴や変化、独自性あふれる世界について、館長
と共に紐解いた。

講演名：「草間彌生 “魂のレジリエンス”」

日時：2020 年 1 月 19 日（日）15:00～16:30

講師：斎藤環（精神科医・批評家）

参加者数：48 名

場所：新宿区立漱石山房記念館 講座室



ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークは月 2 回のペースで実施し、各フロアに展示された作品に関する背景や特性、美術館の概要について説明。

担当：学芸員・スタッフ

日時：各回 14：15～、計 10 回開催（以下参照）

場所：草間彌生美術館 3F 展示室

実施日	参加人数（名）
10 月 26 日（土）	40
11 月 9 日（土）	48
23 日（土）	43
12 月 7 日（土）	35
21 日（土）	35
2020 年	
1 月 11 日（土）	37
25 日（土）	45
計 7 回	283 名

※当初予定していた 10 月 12 日（土）は台風により臨時休館のため中止。

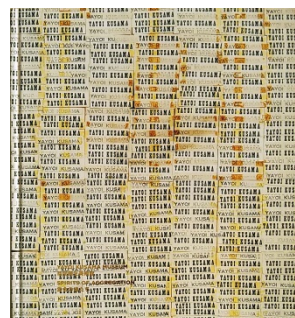


展覧会図録制作

発行：2019 年 10 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・48P・日英バイリンガル

価格：2,200 円



○第 6 回特別展企画

「ZERO IS INFINITY 「ゼロ」と草間彌生」概要

タイトル 「ZERO IS INFINITY 「ゼロ」と草間彌生」

会 期 2020 年 3 月 5 日（木）～2020 年 5 月 31 日（日）

プレスプレビュー 2020 年 3 月 4 日（水）16:00～17:30

開催日数 3 月末日において 4 日間（予定開催日数は 56 日間）

入場時間 ①11:00～12:30

②12:00～13:30

③13:00～14:30

④14:00～15:30

⑤15:00～16:30

⑥16:00～17:30

11:00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日からチケットは美術館ウェブサイトのみに販売

事前予約・定員 70 名・入替制

観覧料 一般 1,100 円 小中学生 600 円

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。消費税値上げにつき一般入場料を 1,100 円に改定。

入場者数 1,173 名（開館日から 3 月末日まで）

1 日平均 約 293 名

*プレスプレビューから 3 月 8 日（日）までは開館したが、その後は新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 月末まで臨時休館となり、関連イベントも中止となった。

図録 規格外 A4 変型ハードカバー・64P・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 25 点 (映像 7 点)

企画主旨

ニューヨークで活動していた草間は、1958 年、ハインツ・マックとオットー・ピーネによってデュッセルドルフに立ち上げられたグループ「ゼロ」に関連する展覧会に幾度となく参加し、ヨーロッパのアートシーンでも注目を集めた。「ゼロ」のアーティストたちと「インフィニティ（無限）」へと向かう草間の表現には、ひとつのモチーフの反復やモノクロームの追求など多くの類似点を見出すことができる。国内においてあまり紹介がなされていない「ゼロ」の作品や運動を、草間の作品や当時の映像・写真資料とあわせて紹介する。「ゼロ」と「インフィニティ」という両極の探求によって、大戦の傷を乗り越え、新しい芸術の持つ可能性を示そうとした前衛芸術家たちの軌跡を紹介する。

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横） ※尺(映像)	所蔵または版權元（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	i.k.b.petit bleu（インターナショナル・クライン・ブルー 小さな青）	イヴ・クライン	1957	顔料、紙、接着剤、ボード	21.5×18cm	Fondazione Calderara, Vacciago
2	LIGHT RELIEF	ギュンター・ユッカー	1959	釘、セメント、木	75×75 cm	BSN 新潟放送 （新潟市美術館寄託）
3	煙のドローイング	オットー・ピーネ	1960	すす、紙	50×65 cm	Galerie Ludorff, Düsseldorf
4	始まりも終わりもない	ハインツ・マック	1959	合成樹脂、イラクサ布	110×100 cm	ZERO foundation, Düsseldorf
5	モビール・フェザー 8-14	ヘンク・ペーテルス	1962-67	アフリカハゲコウの羽、フランネル、電動モーター	120×100×25 cm	個人蔵、ロンドン
6	無限の網(1)	草間彌生	1958	油彩、キャンバス	125.3×91 cm	
7	ファリック・ガール	草間彌生	1967	マネキン、詰め物入縫製布、ウィッグ、麦わら帽子、銅板ベース、彩色	189.2×106.7×58.4 cm	個人蔵
8	マカロニ・スーツケース	草間彌生	1965	スーツケース、マカロニ、彩色	36×54×16 cm	高橋龍太郎コレクション
9	無題	フェルディナント・シュビンデル	1977	フォーム、木、彩色	78×50×11.2 cm	Dierking, Zurich & Landau, Frankfurt / Main
10	ヴァイブレーション	ヘスス・ラファエル・ソト	1958	ミクストメディア、キャンバス	61×126 cm	Adolf Luther Stiftung

11	Surface	エンリコ・カステラーニ	1962	油彩、キャンバス、金属	70×80×5 cm	BSN 新潟放送 (新潟市美術館寄託)
12	アクローム	ピエロ・マンゾーニ	1962-63	ポリスチレン、カオリン	81.5×65.5 cm	Fondazione Piero Manzoni, Milan
13	無題	ヤン・スホーンホーフェン	1965	パビエマシェ、板紙、木、彩色	76.5×60×8 cm	個人蔵、スイス
14	空間概念	ルーチョ・フォンタナ	1965	アルミニウム板	86×63 cm	Adolf Luther Stiftung
15	空間の光格子	ハインツ・マック	1961-69	めっき、真鍮	250×200×200 cm	Prof. Heinz Mack
16	凹面鏡のオブジェクト	アドルフ・ルター	1967	凹面鏡、銀、アルミニウム、ガラス、木	84×133×10 cm	Adolf Luther Stiftung
17	光の錠	アドルフ・ルター	1964	鋼、アルミニウム、ガラス	27.3×20.5×6 cm	Adolf Luther Stiftung
18	光の錠	アドルフ・ルター	1964	鋼、ガラス	32.5×30×5 cm	Adolf Luther Stiftung
19	鏡の壁	クリスチャン・メーゲルト	1961/2020	鏡、スチールワイヤー、ワイヤーランプ、ネジ	サイズ可変	ZERO foundation, Düsseldorf
20	12 枚の鏡のモビール	クリスチャン・メーゲルト	1964/2020	ミクストメディア	サイズ可変	Christian and Franziska Megert
21	キネティック：回転する 3 つに切られた円	クリスチャン・メーゲルト	1966	鏡、木、アクリル、モーター	50×50×12 cm	Christian and Franziska Megert
22	キネティック：回転する 2 つに切られた円	クリスチャン・メーゲルト	1966	鏡、木、アクリル、モーター	50 × 50×12 cm	Christian and Franziska Megert
23	かんむり座	オットー・ピーネ	1965	アルミニウム、真鍮、電球	144×φ95 cm	ZERO foundation, Düsseldorf
24	無限なる天国への憧れ	草間彌生	2020	ミクストメディア	22 × 125.2 × 144.3 cm	
25	ナルシスの庭	草間彌生	1966/2020	ステンレス製ミラーボール	各φ18 cm	
26	テレ・マック	ハインツ・マック、ハンス・エマーリング (撮影：エドウィン・ブラウン)	1968	デジタルカラービデオ、サウンド、16mm フィルムから転換	45 分 40 秒	Institut für Moderne Kunst Nürnberg, produced by Telefilm Saar GmbH on behalf of Saarländischer Rundfunk and WDR/Westdeutsches Fernsehen
27	生きる彫刻	ピエロ・マンゾーニ	1961	映像	1 分 31 秒	Istituto Luce Cinecittà
28	青の時代の人体測定	イヴ・クライン	1960	映像	2 分 27 秒	Yves Klein Archive
29	0×0=アート 色彩・絵筆をもたない画家たち	ゲルト・ヴィンクラー	初回放送日：1962 年 6 月 27 日	映像	32 分 48 秒	ヘッセン放送協会
30	アートプログラム KPI	オランダ音響・映像研究所	初回放送日：1967 年 11 月 16 日	映像	3 分 32 秒	VPRO

31	火の絵画を具現化するイヴ・クライン	イヴ・クライン	1961	映像	9分4秒	Yves Klein Archive
32	長い線	ピエロ・マンゾーニ	1960	映像	2分44秒	Istituto Luce Cinecittà

○関連企画

記念講演

講演名：「『ゼロ』と草間彌生」

日時： 2020年3月5日（木）17:00～18:30

講演者： バルバラ・ケンヒェス（マネージング・ディレクター/ゼロ・ファウンデーション）

建畠哲（当館館長）

黒沢聖覇（当館学芸員補）

場所：ゲート・インスティテュート東京 ホール

※開催中止（新型コロナウイルス感染拡大防止による自粛のため）

ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークを月2回開催予定。本展では英語によるギャラリートークと日本語によるギャラリートークを毎月1回のペースで実施し、特別展の主旨や「ゼロ」作家および作品の特徴、草間との関係性などを解説し、スタッフの鑑賞の視点を伝えることで来場者の鑑賞をサポートする予定だったが、中止となった。

担当：学芸スタッフ

日時：各回14:15～、計6回開催（以下参照）

場所：草間彌生美術館2・3F 展示室

実施日	参加人数（名）
3月14日（土）	→開催中止
28日（土）	→開催中止
4月11日（土）	
25日（土）	
5月9日（土）	
23日（土）	
計6日	

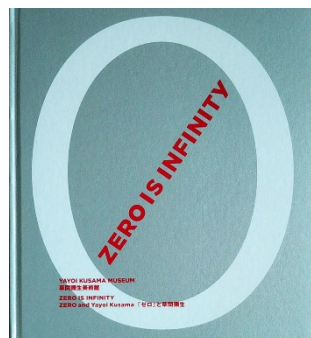
※3月は開催中止（新型コロナウイルス感染拡大防止による自粛のため）

展覧会図録制作

発行：2020 年 3 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・64P・日英バイリンガル

価格：2,500 円



教育・普及活動

こども向けには、展示ギャラリーで作品鑑賞をした後に、自分の手を動かして作品を生み出す体験ができる少人数対応のワークショップを実施している。また、美術館へ来館する小学生には鑑賞を補助するツールとして質問や疑問を載せた「美術館たんけんワークシート」を展覧会にあわせて制作・配布している。答えを探すために楽しみながら美術館を巡る機会を提供することで、作品を多様な視点から見る力の養成に役立ちたいと考えており、海外からの来館者も多いため日本語・英語版を用意し対応した。本年度も特に子どもの来館が多い夏休みの時期に向けて、「こどもガイド vol2」を新たに作成し、美術館で来館者に配布するほか、小学生対象のスクールプログラムの事前・事後学習ツールとしても有効活用した。スクールプログラムはオフィシャルには小学生を対象としているが、希望に応じて中・高・大学生まで拡大したトライアルを実施し、それぞれの年齢に応じたプログラム構成やコミュニケーション方法などを探った。小学生対象にはボランティアスタッフと対話型で作品を鑑賞する時間を中心に、中高生以上には当館スタッフによるギャラリートークや質疑応答を加えるなど、より参加者の興味・関心に応えることに重点を置いて実施した。

また、教育普及活動のさらなる充実を進めるため、プログラムの実際の現場で子ども達と接する経験を積むボランティアスタッフの育成に加え、イベント運営の観点から準備・実施・振り返りまで広く関わるインターンの募集・受け入れも行い、人材育成にも着手した。

○一般向けプログラム

講座シリーズ

開催中の展覧会に限らず広く草間作品全般を対象とする講座シリーズは、昨年度に続き、第2回・第3回を開催した。各回でテーマを設定し、作品が生まれた背景、美術史上の意義や他作家との関係性を考察した。

告知は美館ウェブサイトに加え、新宿区報にも掲載し、多数の応募の中から抽選による参加となった。

講座シリーズ 第2回「草間彌生『無限の網』の絵画一起源と展開」

日時：2019年7月14日（日）15：00～16：15

講師：塩田純一（学芸課長）

内容：草間彌生がニューヨークに渡った1958年当時主流であった抽象表現主義をジャクソン・ポロックなどの作例をとりあげ紹介し、草間がいかに独自の文脈の中で「無限の網」に辿り着き、展開していったかを講演。

参加者数：45名

場所：新宿区立漱石山房記念館講座室



講座シリーズ 第3回「草間彌生「わが永遠の魂」とは何か？」

日時：2019年12月15日（日）15：00～16：15

講師：塩田純一（学芸課長）

内容：2004年に始まる「愛はとこしえ」シリーズに続いて2009年から現在に至るまで制作されている最新絵画シリーズ「わが永遠の魂」について講演。キャンバスをテーブルに置き、回転させながら描く独特の制作法やこれらのイメージがどこからやって来るかについて、また描くことによって草間が未来の世代に何を託そうとしているのか、という観点から考察。

参加者数：42名

場所：新宿区立漱石山房記念館講座室



○こども向けプログラム

美術館たんけんワークシート

こども向けの鑑賞ツールとして、現代美術に興味を持ちながら鑑賞することが出来るよう、登場する人物の会話の内容を想像したり、作品に使われているさまざまな色や形を探す問いかけなど、出展作品の理解と楽しい時間を過ごしてもらうために作成、来場したこどもたち（希望者）に配布した。またスクールプログラムの参加小学校からの要望に応じてスクールプログラム実施後、学習ツールとしても配布に応じ有効活用している。

対象：小学生以下

用具：ワークシートと鉛筆、クリップボードのセット

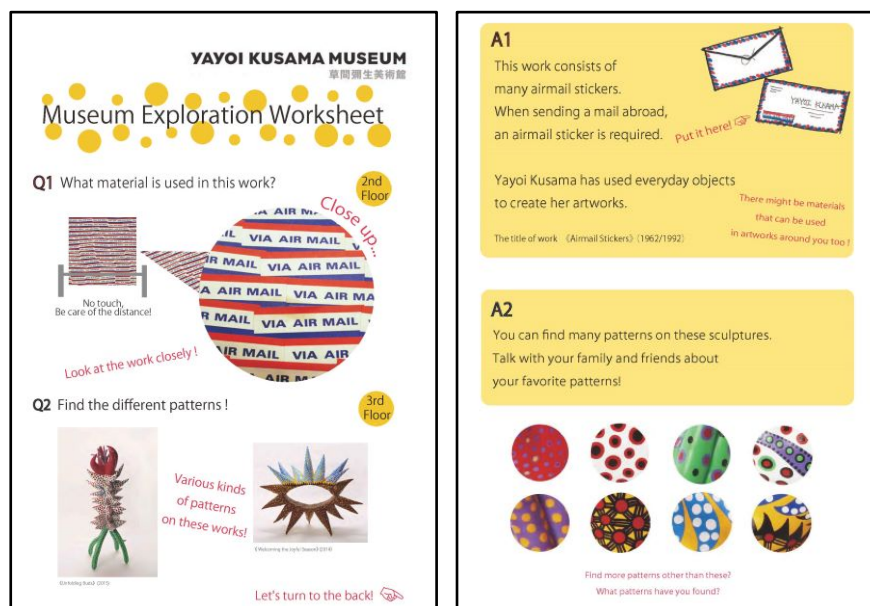
配布数：第4回展 日本語 225 名/英語 175 名（93 日間）

第5回展 日本語 50 名/英 75 名（65 日間）

・4回展ワークシート



・ 5 回展ワークシート（英語版）



こどもワークショップ

月 1～2 回程度、週末の開館時間前にこども達（保護者同伴）が参加するワークショップを開催した。告知は美術館ウェブサイトと専用チラシを作成し、昨年度に続き児童館や事前了解がとれた小学校へ配布し行った。プログラム進行に当たっては、大学生のボランティア 2～3 名が子ども達の鑑賞と創作をサポートしている。

本年度は拡大版として、夏休み期間に小学生を対象とし 2 時間の特別プログラムも実施し、通常より鑑賞・対話の時間を長くとした結果、その後の創作活動の達成感・満足度も高く、また親子の会話も活発に行われる傾向があった。

内容：展覧会の作品の一部を鑑賞し、それに合ったテーマで創作を行うワークショッププログラムを行った。

第 4 回展では「だれかの顔をかいてみよう！」と「ひとつのもの…くりかえし、たくさん、かいてみよう！」という 2 種類のプログラムを実施した。前者は 3F ギャラリーに展示された最新シリーズの絵画、後者は 2F ギャラリーに展示された 1960 年代の絵画を鑑賞し、興味や好奇心を感じてもらいながらその後、創作を行った。

第 5 回展は「自分だけのもようをかいてみよう！ ～かぼちゃはなんで水玉なの？～」と題して、水玉もようのかぼちゃの立体作品を鑑賞した後で、こどもたちそれぞれの模様を画用紙のかぼちゃに描いた。

日時：週末の開館前の 1 時間

場所：美術館 1F スペース（作業机と材料を準備）

参加者：3～12才（小学生以下）

・第4回展

実施日	参加者	人数（名）
4月14日（日）	3～12才（小学生以下）	9
5月5日（日）	3～12才（小学生以下）	11
19日（日）	3～12才（小学生以下）	9
6月16日（日）	3～12才（小学生以下）	9
7月14日（日）	3～12才（小学生以下）	11
8月11日（日）	3～12才（小学生以下）	9
21日（水）	6～12才（小学生）	10 *夏休み特別プログラム
合計 7回		68名



・第5回展

実施日	参加者	人数（名）
10月20日（日）	3～12才（小学生以下）	11
11月17日（日）	3～12才（小学生以下）	10
12月15日（日）	3～12才（小学生以下）	10
2020年		
1月19日（日）	3～12才（小学生以下）	10
合計 4回		41名



○スクールプログラム

小学生対象のスクールプログラム

休館日に受け入れを実施しているため、他の来館者を意識することなく児童たちが作品を間近に鑑賞しながら、自由に会話・発言し、先生が指導する場として機能している。事前に先生との打ち合わせを行い、美術館の子ども向けコンテンツ「美術館たんけんワークシート」「こどもガイド」の提供や、美術館での基本マナーや作品の見方をオリエンテーションするなど先生の要望を聞きながら柔軟に対応を行った。

日時：7月3日（水）10:00-11:30

学校名：新宿区立戸塚第三小学校

参加者：小学2年生 38名

同伴の先生：4名

日時：11月12日（火）・11月20日（水）9:00-15:00

学校名：新宿区立鶴巻小学校

参加者：全校生徒 141名（5グループ）

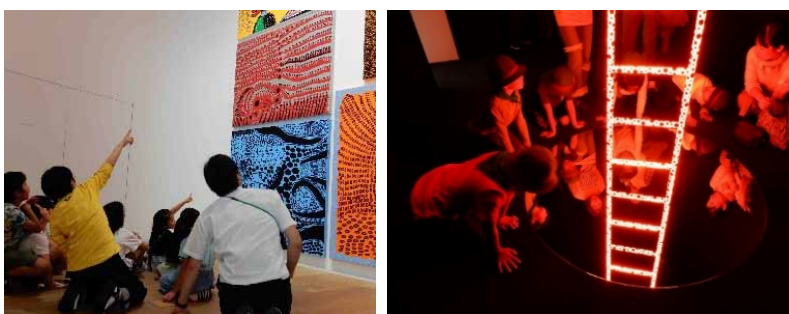
同伴の先生、地域ボランティアの方々 15名（5グループ）

日時：2020年1月15日（水）

学校名：新宿区立早稲田小学校 9:20-12:20

参加者：小学5年生 85名（3グループ）

同伴の先生：5名（3グループ）



また、本年度は個別の要望に応じて大学生・中高生を対象にしたプログラムもトライアルとして実施することができた。引率の先生方との事前の打ち合わせによって、20分程度のギャラリートークを実施し、参加者からスタッフへの質疑応答の時間を設けた。

日時：7月3日（水）14:30-15:30

学校名：東京藝術大学 美術学部 版画研究室

参加者：10 名

同伴の先生：4 名

日時：10 月 20 日（日）17:30-18:30

学校名：武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科

参加者：36 名

同伴の先生：2 名

日時：12 月 13 日（金）17:30-18:30

学校名：成城中学校・高等学校 美術部・美術選択者

参加者：15 名

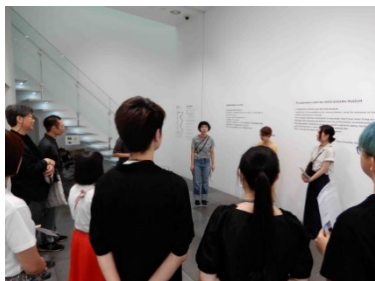
同伴の先生：12 名

日時：12 月 20 日（金）17:30-18:30

学校名：共立女子大学

参加者：40 名

同伴の先生：1 名



○こどもガイド

夏休み期間、来館の多い子ども向けにわかりやすい資料としてこどもガイドを昨年に続き作成した。本年度は vol.2 として、草間作品の代表的なモチーフのひとつ「水玉」を取り上げ、多様に展開する代表的な作品を示し、見かたや考え方など興味を持つきっかけづくりとした。

美術館での作品鑑賞の補助、家族や友達との話題や、夏休みの自由研究の一助となることも視野に入れて配布した。またスクールプログラムの事前・事後の学習ツールとして希望があった参加小学校に vol.1（昨年度作成）を提供した。

対象：小学生

仕様：15×42cm サイズ・観音開き・カラー

配布数：105 部



・ こどもガイド (vol.2) 裏表紙・表紙



・ こどもガイド (vol.2) 中面

3. その他の実施事業

○草間彌生に関する作品や資料の収集・保存および調査・研究

作品・資料の収集

作品の収集

関連資料の収集

関連書籍等の収集

作品や資料の保存

作品や資料の保存管理

作品や資料のデジタルアーカイブ（計画段階）

作品や資料の調査・研究

作品・展示解説を掲載した図録の制作・発行と、関連機関への寄贈

作品に関する評論等の調査・研究

作品研究「草間彌生「集合：1000 艘のボート・ショー」をめぐる考察—1960 年代半ば以降における新たな展開の起点としての—」塩田純一（学芸課長）＊次年度も継続
作品研究「ゼロ・イズ・インフィニティ 「ゼロ」と草間彌生の 60 年代」黒沢聖覇（学芸員補）＊次年度も継続
教育普及活動における研究「教育普及プログラム PDCA サイクルによる検証と独自性のあるプログラム開発に向けて」宮下咲（エデュケーター）＊次年度も継続

4. 著作権の管理

○権利者の利益はもちろんのこと社会全体の文化創造の活力が損なわれることのないよう、草間彌生の著作権情報の窓口として株式会社草間彌生と協働して管理業務を行う。

- ・商標登録

- 日本（登録準備・手続きを行う）

- 海外（中国は登録手続済）

- ・著作権侵害案件の対応

- 日本（主にネットオークションに出品される贋作などの対応）

- 海外（主に中国などで開催される贋作展覧会などの対応）

その他、財団の目的達成のために必要な活動

○その他、財団の目的達成のために必要な活動

[ミュージアムショップの運営、美術館グッズの制作・販売]

※ミュージアムショップの運営状況を検証し、オリジナルグッズの開発による来館者の満足度の向上、および美術館の収益拡大をはかる。

グッズアイテム

- ・オリジナル

- 展覧会カタログ・ポストカードセット

- ハンカチ（2 種類・各 3 バージョン）＊今年度 1 アイテム商品化

- お菓子 あられ缶 ＊今年度商品化

- お菓子 プチ・ゴルフ缶 ＊今年度商品化

- スカーフ（2 種類）

- ・草間スタジオ既存グッズ

- パンプキンオブジェ（2 種類）

- パンプキンパーズ

- パンプキンクラッチバッグ

- パンプキンクッキー＊今年度内で終了

[博物館登録申請に向けた業務]

東京都教育委員会による博物館登録を目指し、手続きに向けた各種準備を行い、3月の特別展開催のタイミングで博物館登録申請に必要な書類を準備、都担当者へ提出した。審査を経て、年度内の博物館登録完了を（早くて申請後3ヵ月以降）目指している。

II. 庶務の概要

1. 役員

令和2年3月現在

代表理事	草間 弥生	7 名
	建畠 哲	
業務執行理事	大田 秀則	
	大村 一裕	
	中森 康文	
	南條 史生	
	林 知一	
評議員	伊藤 正伸	6 名
	渋谷見 彰	
	高杉 恵	
	原井川 恵子	
	松本 透	
	南 雄介	
監事	大森 京太	2 名
	加登屋 健治	

2. 組織図

令和2年3月現在

